

特集

希少癌に備える

いざという時のための基礎知識

企画にあたって

泌尿器疾患の特徴として、まれな疾患が多いことが挙げられます。数年ぶりあるいは数十年ぶりに経験する症例に対して、過去の記憶を呼び起こし、診療録を見直す経験をされたことが、読者の皆様もあるのではないのでしょうか。泌尿器科学会の地方会ではこのようなまれな疾患の発表が多く、頭の片隅に入れておき、いざという時に備えていらっしゃる先生も多いのではないかと思います。

今回の特集では希少癌にスポットを当てさせていただきました。泌尿器癌のなかでどれが希少癌に相当するかの明確な定義があるわけではありません。希少癌であることに異存はないものの、希少癌のなかでは経験する頻度が比較的高い（希少癌のなかでは希少ではない!?) 疾患を選んでいきます。これだけ集めてみますと、近い将来に経験するような予感がいたします。学会でもシンポジウムで取り上げられることはまずないでしょうし、このような特集がないとまとまって勉強する機会がないと考え、あえて企画させていただきました。

この時期に本特集を組んだのには理由があります。本誌 2018 年 10 月号で「泌尿器科医のためのゲノム腫瘍学入門—時代に取り残されるな」を特集させていただきましたが、ちょうど 1 年が経過し、読者の皆様もゲノム医療が実装化されている実感をもたれていると思います。本年 6 月に遺伝子パネル検査である「OncoGuide™ NCC オンコパネルシステム」と「FoundationOne®CDx がんゲノムプロファイル」が保険収載されたからです。適応は「標準治療のない、もしくは終了となった固形がん患者のうち、主治医が化学療法の適応となる可能性が高いと判断した患者」です。まさに、希少癌が対象となりますので、本特集をぜひ活用してください。

慶應義塾大学医学部
泌尿器科学教室

大家 基嗣